

認知症介護実践者研修
学習成果の実践展開と共有
ガイドライン
(参考資料)

令和8年4月作成版

認知症介護研究・研修センター

はじめに

認知症介護実践者研修（以下、実践者研修）では、単に知識を得るだけではなく、研修で学習した成果を現場で実際に応用し、その経験をもとに振り返りながら、実践に活用できる技術として修得することを目指します。

「学習成果の実践展開と共有」は、前期研修での学びを踏まえて自施設・事業所において実践した際の気づき等を共有する科目として位置づけられ、単独した科目ではなく、前期研修での学び・実践をまとめて後期研修へとつなげる科目となります（図1）。

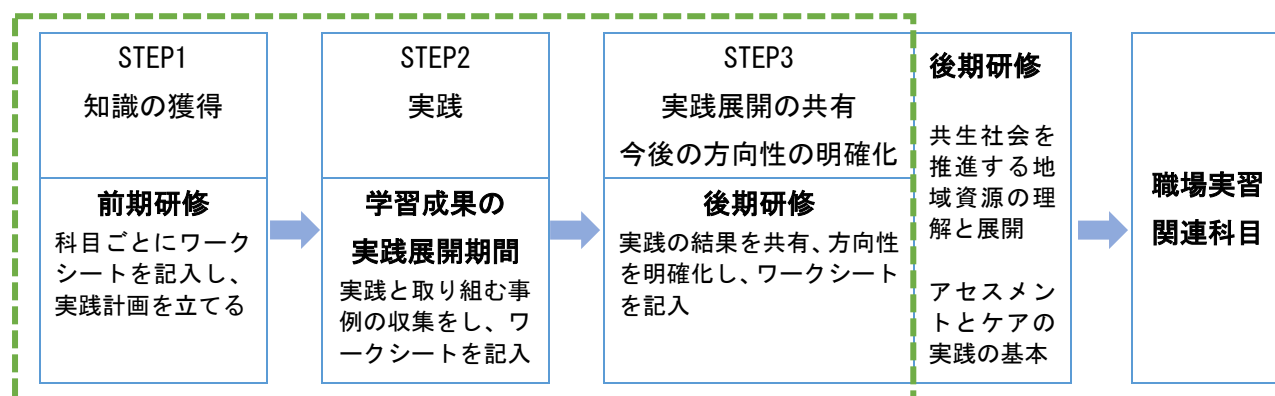


図1「学習成果の実践展開と共有」の位置づけ

前期研修では、自己課題を設定し、各科目での学びやSTEP2の自施設・事業所における実践（学習成果の実践展開期間）で実践したいことをワークシートに記入します。それを踏まえて、学習成果の実践展開期間では、実際に実践をし、その記録と感想をワークシートに記入します。後期研修では、実践した結果等を他の受講者と共有し、気付いたこと等をさらにワークシートに記入します。加えて、学習成果の実践展開期間では、職場実習で取り組む事例を収集し、そして、実践者研修全体での学びを活かして、職場実習に取り組みます。

本ガイドラインは、実践者研修の「学習成果の実践展開と共有」の科目について、シラバスに基づき科目を企画・運用する際の参考資料として示すものです。なお、シラバスに示されている目的・到達目標・概要等を共通認識されたうえで、企画・運用されることが望まれます。

- ※ 本ガイドラインは、認知症介護指導者に「学習成果の実践展開と共有」とその前後の科目をどのように関連付けて実践者研修を組み立てればよいかの案を示すものであり、この資料の通りに進めることを義務付けるものではありません。
- ※ ワークシートは、指導者が実践者研修で活用する場合は、そのまま活用していただいて結構です。その場合は、認知症介護研究・研修センターが制作したものであることを示してください。一部改編して利用する場合は、認知症介護研究・研修センターが制作したものを一部改編した資料であることを示してください。その場合、「©認知症介護研究・研修センター」の表記は、削除してください。

I

「学習成果の実践展開と共有」の流れと進め方

「学習成果の実践展開と共有」は、以下の流れで進めることを想定しています。図2とあわせて確認ください。

1. 前期研修

(1) 「認知症介護実践者研修の理解」

- 研修修了後に期待される役割や研修の概要を踏まえたうえで、実践者研修における自己課題を設定します。

(2) 「認知症ケアの理念」「生活支援の方法」「権利擁護の視点に基づく支援」

「家族介護者の理解と支援方法」「行動・心理症状（BPSD）の理解と支援」

- 各科目、授業後に学びの振り返りを行い、自施設・事業所において実践してみたい認知症ケア（「生活支援の方法」は、自施設・事業所において認知症の人とコミュニケーションを行う上で実践してみたいこと）を設定します。

(3) 「学習成果の実践展開と共有」（30分程度、シラバス p7 内容 1.）

- 自施設・事業所における実践の準備として、前期研修での学びをふまえた実践計画を立てます。

2. 学習成果の実践展開期間

(1) 自施設・事業所のサービスを利用する認知症の人とのコミュニケーション

（シラバス p7 内容 2.1）

- 前期研修中に「生活支援の方法」で学んだことをふまえて設定した「認知症の人とコミュニケーションを行う上で実践してみたいこと」を自施設・事業所において実践します。

(2) コミュニケーションの結果と結果からの学びの記録（シラバス p7 内容 2.2）

- 認知症の人とコミュニケーションを行った結果と結果からの学びを記録します。

(3) 職場実習における対象事例の選定と情報収集（シラバス p7 内容 2.3）

- 前期研修中に設定した「実践してみたい認知症ケア」を自施設・事業所において実践し、職場実習で取り組んでみたいと思う事例を選定し、情報を収集します。

※学習成果の実践展開の期間は、各研修実施主体の判断で設定します。

3. 後期研修

(1) 「学習成果の実践展開と共有」（60分程度、シラバス p7 内容 3.）

学習成果の実践展開期間中に実践した際の気づきや疑問等を他の受講者と共有し、学びを深め、自分自身の認知症ケア実践上の課題や取り組みの方向性を明らかにします。

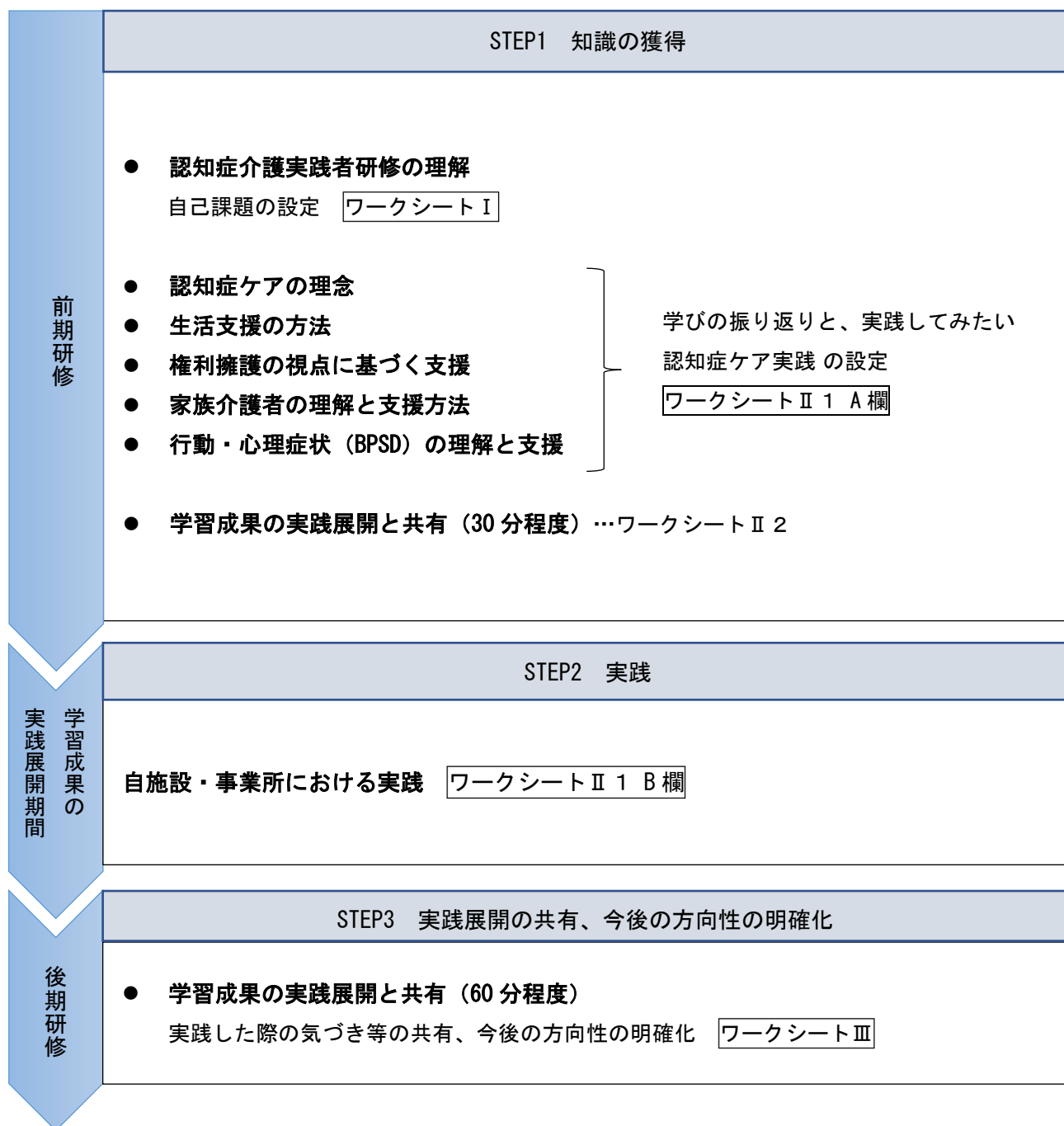


図2 「学習成果の実践展開と共有」の流れとワークシートとの対応

Ⅱ ワークシートの活用方法

ワークシートは、以下のような活用方法が考えられます。以降、太字の **UD** 書体に下線を引いて表記している箇所は、ワークシートの見出しとなります。

Ⅰ. 前期研修「認知症介護実践者研修の理解」自己課題の設定

「認知症介護実践者研修の理解」の科目で、これまで受講者自身がどのようなケアを行ってきたか振り返る際に活用することが考えられます。振り返ったことを踏まえて、実践者研修での自分自身の課題は何か考え記入する欄も設けています。

Ⅱ. 前期研修の科目のレビューと学習成果の実践展開

Ⅰ. 科目ごとのレビューと実践展開の記録・感想

- **A** 欄 は授業後に記入し、**B** 欄 は職場に戻っているときに記入します。
- **A** 欄 は、各科目において学んだことの整理及びこれまでの自分自身の認知症ケアを振り返り、学びと実践をつなげて考えることをねらいとしています。受講して学んだこと、自施設・事業所において実践してみたいことをレビューとして記入する等の活用方法が考えられます。記入に設ける時間は 10 分程度を想定しています。レビューとは別としたり、宿題として記入したりすることも考えられます。
- **A** 欄 に学んだことを記入する際には、科目名のみやキーワードのみを記入するのではなく、学んだことを具体的に記入することが大切です。

不適切な記載例 ・ 家族介護者の理解と支援方法
・ 権利擁護

- 「生活支援の方法」の **A** 欄 は、学んだことと、認知症の人とコミュニケーションを行う上で実践してみたいことを記入します。
- **B** 欄 は、**A** 欄 に記入した実践してみたいことを職場で実践した場面を思い出し、具体的に書き出す欄としています。また、実践した感想も記入することとしています。実践展開した際の記録とその際に感じたことの振り返りを意図しています。
- 「生活支援の方法」の **B** 欄 は、自分や相手の言葉、表情、反応等コミュニケーションの内容を具体的に記入します。

2. 職場実習で取り組んでみたい事例

- 前期研修での学習成果をふまえ、職場実習で取り組んでみたいと思った事例を 2 つとその理由を記入し、職場実習へとつなげていきます。

例) 「家に帰りたい」と訴える A さんの事例に取り組みたい。

Ⅲ. 後期研修「自施設・事業所における実践の報告」

1. 記録と感想を書いてみて、今改めて気付いたことや疑問点

- 実践してみたいことを実践した結果、今改めて気づいたことや疑問点を記入する欄としています。実践してから時間をおいて記入することで、改めて気づきや疑問点等が生まれ、それを記録することで学びにつなげられることが考えられます。記入の時間は10分程度を想定しています。
- 記入後には、他の受講者と共有し、他の受講者の発言を聞いてさらに学びを深めることが大切です。自分自身の認知症ケア実践上の課題や取り組みの方向性を明らかにすることもねらいとしています。共有の時間は、30～40分程度を想定しています。

2. 印象に残った他の受講者の発言と気付いたこと

- 共有した際に印象に残った他の受講者の発言と気付いたことを記入する欄としています。

Ⅲ 指導の留意点

- オリエンテーション等の時間に、前期研修と後期研修の間に学習成果を踏まえた実践を行うこと等の説明をあらかじめしておくことが望まれます。
- ワークシートを記入する際は、全てのページにおいて倫理的配慮として、認知症の人及びその家族の氏名、地域名、生年月日、年齢等個人が特定される可能性がある情報は記号化するよう説明が必要です。
- 原則として、事例収集で協力を得る認知症の人は、職場実習で取り組む対象としますが、受講者の学びに合わせて柔軟に対応することが求められます。
- 職場実習で取り組んでみたい事例を考える際に、職場実習で取り組むことが難しいものを受講者が提案した場合は、ワークシートの欄外に記録しておき、実践者研修修了後に取り組むよう指導してもよいでしょう。
- 後期研修の「自施設・事業所における実践の報告」で他の受講者と共有した結果、職場実習で取り組みたいと思う事例を変更したい場合は、「職場実習の課題設定」の科目で再検討すること等が考えられます。